

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

秋の気配を強く感じる時季となった。虫の音も次第に聞こえるようになり、夜が更けると澄んだ声で鳴く虫は心を落ち着かせてくれる。

る。だが美しい音色のコオロギが世界的なタンパク質不足を救う存在として注目されている。

国連食糧農業機関は、地球の人口増加により2050年には肉の全体消費量が、現在の1.8倍

に増加するとの報告。

近年食用コオロギが注目されている

品目以上は合わせて70

数ある昆虫食のなかでも、特にコオロギが食用として注目されるのは、食肉と同程度のタンパク質が含まれ、鉄やマグネシウム、カルシウムも豊富に含まれるなど栄養価の高さや牛や豚などに比べ育てるための飼料が少なく

環境荷軽減手段として、コオロギの雑食を利用して人間の残飯などの利用による、食料破棄問題の解決の一助として今後増々注目されるだろう。2年前に無印良品の食品で「コオロギせんべい」がオンラインショップ限定

あるのだから、コオロギをはじめとする昆虫は甲殻類に近く、人によってはアレルギーを引き起こす可能性もあり、自然採取したものは、何をエサに食べているのかも分からず、細菌・ウイルス・病原体を持っているリ

上ったとの調査報告が報道された。大北地域も小規模ながら野菜栽培の現場でも気象の影響なのかと思わせる現象を感じる事が多くなってきた。特に今年はナスの不

次と蕾が出て秋まで咲き続け、無駄花がなく必ず結実し「親の意見と茄子の花は千に一つも仇はない」と親が子どもにする意見には無駄がないとの例にする

ほどだ。容赦ない気候変動に対応できる取り組みを強く感じる毎日でもある。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)

済み、成長が生産し出荷までが最短1週間程度と短く原料が調達しやすい点だ。見た目には少し抵抗

で発売され、発売初日に完売したことで注目され、食用コオロギの生産や商品開発に乗り出す企業が増えた。

世界各地で異常気象による影響が多発している。共同通信は温暖化などで生育不良や収穫量減の影響が出ている農作物が、

がある食用コオロギだが乾燥して粉末状になってしまえば、現在関心が高まっている環

コオロギは良く見かける昆虫でもあり、イナゴのように捕獲して利用したいとの思惑も

による影響が多発している。共同通信は温暖化などで生育不良や収穫量減の影響が出ている農作物が、



ナラ枯れ被害が拡大しているが被害木に発生する毒キノコ「カエンタケ」に注意だ